

2020年10月30日

HOBIA NEWS No.366

- BioJapan2020 についての報告
 - 令和2年度 HOBIA 冬期例会のお知らせ
 - 関西バイオビジネスマッチング 2021 募集について
-

● BioJapan2020 に参加して

HOBIA 理事 富田房男

BioJapan(パシフィコ横浜)に参加しました。コロナの影響が大きくあると思ったが会場には来場者が一杯だった。しかし海外からの参加者がなく寂しい感じもした。BioJapan と再生医療 Japan と healthTECH Japan で構成されたショーであった。内容は、医療と健康が主体であり、栄養などはわずかのものではあった。展示参加者は、BioJapan には350を超え、次いでジャパンヘルスケアベンチャー・サミットが115ほど、そしてME-BYO Japanが16であった。

北海道からの参加は、北海道&札幌バイオ産業コンソーシアムとして15団体が展示に参加していた。大学としては、旭川医科大学、帯広畜産大学、北海道大学、札幌医科大学だった。他に北海道科学大学が単独で出ていたのがユニークだった。北海道大学の内容はそれほどのものではなかった。チトセ浜理薬品が新たに参加しており、久しぶりの医薬関連の新規参加で、意欲的な展開を図っていて、今後の発展を期待したい。特に北海道で独自の研究開発を試みることで、久しぶりの医薬関連の新規参加に期待したい。

チトセ浜理薬品株式会社

ペプチド合成、不斉合成、複素環誘導体、核酸誘導体を柱に原薬や原薬中間体の製造に加え、食品(野菜や果実の濃縮液)、食品添加物を扱っている。北海道独自プロジェクトも発足させる予定があるとしている。<https://www.hamarichemicals.com>

株式会社 FOVE

アイトラッキング搭載型 VR(ヴァーチャルリアリティ)ヘッドセットを開発し、これを用いた視線追跡技術を活用して、安価に目のデータを取れるようにしたものを宣伝していた。緑内障の視野検査、飲酒、脳震盪や眩暈の定量評価などの医療ヘルスケア領域に加えて、彼に伴う認知機能ひいては認知症の診断にまで使えることを広報していた。認知機能を簡便に測れることに注目したい。<https://fove-inc.com/>

株式会社ネクスト21

CT ボーン™ (世界初の自分の骨に癒合・同化する人口骨)を広報していた。3Dプリンターを用いて、成形したもので時間の経過につれて患者の骨に同化するものである。これらの高齢化社会に貢献するところが大きい。<https://next21kk.wixsite.com/ctbone>

公財) 東京都医学総合研究所

1972 に東京都神経科学総合研究所として設立し、2012 に公益財団法人となったもので、超高齢化社会、ストレス社会がもたらす健康に関わる諸問題を解決するように研究を行っている。遺伝子治療用ベクターによる視神経再生、神経変性疾患の細胞モデル・動物モデル、量依存的に認知機能を亢進・抑制する RP58,パーキンソン病の新規バイオマーカー、HGF-regulated tyrosine kinase substrate(HGS)を標的とした抗腫瘍剤、mTOR を標的とした A 型肝炎の新規治療法、“改変型 NAGA” 免疫反応を回避できるファブリー病治療用酵素・拡散・細胞の開発についての紹介と最先端の研究紹介があった。北海道にも欲しい機能である。
(<http://www.igakuken.or.jp/project/to-tomin/>)

NEDO (新エネルギー・産業技術開発機構)

NEDO が推進するスマートセル・プロジェクトの大々的な広報活動が行われていた。このプロジェクトは、スマートセルからスマートセルインダストリーそしてバイオエコノミーへとつなげるもので、植物・微生物から工業材料の生産を目指した革新的バイオテクノロジー開発を旨とするものである。2020 年度末に区切りを迎えることもあって、詳細に成果説明が行われていた。その成果を成果集にまとめ配布していた。
これに加えて材料・ナノテクノロジー部からの広報もあった。機能性材料の開発スピードを加速する AI 時代の計算科学手法の開発、化石資源に頼らない化学品製造プロセスの開発、大幅な省エネと廃棄物削減、コスト削減技術開発などの紹介もあった。北海道の主力産業である農業、食品産業にも関連するので是非ともホームページもご覧いただきたい。(<https://www.nedo.go.jp>)

医薬基盤・健康・栄養研究所(NIBIOHN)

2015 年に医薬基盤研究所と健康・栄養研究所が統合されて設立されたものである。今回の展示は、医薬主体で栄養に関するものはなかった。しかし話を聞くと 1920 年に内務省の栄養研究所として発足しており、古いデータもあるとのことなのでコホートの整理もできるとのことらしいので、そのことを要望しておいた。創薬からその開発そして食品についての栄養生理学上の試験もできるとのことなので今後に期待したい。そういえば北海道にはこの研究所に属する薬用植物園（北海道研究部）が存在するので、アグリバイオとのつながりもできそうである。
(<http://mpdb.nibiohn.go.jp>)

北海道からの出展は、北海道バイオコンソーシアムの出展企業の以下団体だった。正直あまり活発とは言えなかった。(株)イーベック、医化学創薬(株)、(株)エヌビー健康研究所、カムイファーマ(株)、コスモ・バイオ(株)、札幌事業部バイオプロダクツユニット、(株)ジャパン・ラム、(株)ジャパン・バイオメディカル、チトセ浜理薬品株、ライラックファーマ(株)に加えて、大学(旭川医科大、帯広畜産大、北大、札幌医科大)であった。

これとは別に、北海道大学病院臨床研究開発センターと臨床研究管理部が独自に j パンプを出していた。医療系ベンチャー支援を研究開発や創薬に関して行うとの広報をやっていた。
(<http://mcip.hokudai.ac.jp/startup/>)

JST

毎年のことであるが非常にうまい広報活動を行っている。注目したものとして①未病状態を検出：道的ネットワークバイオマーカー、②DNA ポリメラーゼの不可逆的阻害剤(抗がん剤、抗ウイルス剤ねらい)、③抗体に酵素作用を持たせる革新的手法と将来展望(抗がん剤、インフルやコロナの対策、ウイルスの迅速検出ねらい)、④Romanesco(新規 RNA アプタマー)(薬物応答性遺伝子の体内挙動追跡用プローブ、特定神経組織における神経細胞分化や神経組織修復時におけ

る発現遺伝子の生細胞での解析、特定疾患（ガン、糖尿病、アルツハイマーなど）に於いて発現する遺伝子の生細胞でのイメージングなどの狙い）などの成果を広報していた。
(www.jst.go.jp/chizai/)

株式会社 S' UIMIN

「病院レベルの睡眠計測を自宅で」を広報していた。昨今は様々のストレスで睡眠が妨害されこれが原因の疾病も多い。そこで睡眠の質を簡単に測るを広報していた。このデータはさまざまな利用があると思われる。疾患と睡眠の関係の調査や睡眠導入製品の評価に死傷できる。
(<http://www.suimin.co.jp>)

バイオバンク・ジャパン

東京大学医科学研究所内に設立されたものでヒトの生体試料と牽連する情報が体系的に管理されているバンクである。統合臨床データベース、DNA 保管庫、血清・血漿保管庫、組織保管庫からなるものでこれからのゲノム医療の実現に向けての貢献が期待される。
([https://biobankjp.org./](https://biobankjp.org/))

Ubie(ユビー)株式会社

AI 問診を行う会社である。既に 200 施設、42 都道府県で導入されているとのことである。北海道のように過疎地が多い所では有用と考えられる。全ての電子カルテと連可能、すべての内科系診療科の問診に対応しているので今後に期待できそうである。(mailto:info@dr-ubi.com)

これらの他に並行した時間帯に沢山の講演会があった。筆者は、参加するに至らなかった。

令和 2 年度 HOBIA 冬期例会のお知らせ

毎年開催している冬期例会ですが、コロナ禍の下講演会のみで開催といたしました。概要のみのお知らせですが、以下の様に開催いたします。

1. 日時：令和 3 年 2 月 4 日（木）13:00~17:30（参加費非会員千円）
2. 場所：北海道大学 学術交流会館 1 階小講堂（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）
3. 講演：創薬、バイオベンチャー支援などに関して 3 題を予定。
演者は、北大病院、中外製薬、(一財)バイオインダストリー協会(JBA)から各 1 名の予定
講演 1)「医療イノベーション創出のための産官学の連携—北海道大学病院の試み—」
北海道大学病院 臨床研究開発センター 教授 **荒戸照世氏**
2-1)「大学・ベンチャーのアライアンス状況とバイオ戦略の展開」(仮) (30 分程度)
JBA 一般財団法人バイオインダストリー協会 **黒井正雄氏**
2-2)「血液凝固第Ⅷ因子機能を代替するバイスペシフィック抗体医薬の創製による
血友病 A の治療革命」(60 分程度)
中外製薬研究本部シニアフェロー/大阪大学免疫学フロンティア研究センター
招聘教授 **服部有宏氏**

● 関西バイオビジネスマッチング 2021 募集について HOBIA は「ビジネスマッチング 2020 トライアル」を応援します！

HOBIA は、北海道地域のバイオ支援機関として、姉妹団体である NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議（近畿バイオ）に協力しています。近畿バイオの事業である「ビジネスマッチング 2020 トライアル」を応援しています。昨年度までの展示会とオールプレゼンテーションのスタイルを変え、本年度は Zoom を利用したオンラインでの商談会開催を試行することになりました。HOBIA からの具体的な協力内容は、以下の様なものです。

○道内企業に対する告知と勧誘（優先推薦枠あり）

○参加企業に対する手続等の支援と、プレゼンテーション用シート作成などに対する助言

優先推薦枠がありますので、当会を通しての申込に関して配慮があります。近畿バイオでは、プレゼンテーション用シートに関する事前のチェックを行っていますが、ご希望があれば HOBIA がシートの作成に協力します。

主催者からの依頼もあり、北海道での参加企業の募集活動を開始いたしました。関西での営業活動を望んでいる、あるいは販路拡大を是非とも進めたい企業にとってとても良いチャンスです。奮って、ご参加されることを期待いたします。また、周囲に参加を勧めたい企業がありましたら、HOBIA にご紹介いただきたいと思います。申し込みは、HOBIA 事務局まで FAX かメールでお願いします。

【申込】HOBIA 事務局 FAX：011-706-1331 Mail：jimu@hobia.jp

申込時にご連絡いただきたい事項：

企業名と申込担当者の氏名

連絡先（電話番号、FAX 番号、メールアドレス）

締め切り：2020 年 11 月 20 日（金）

近畿バイオと締切日が同日ですが、正式な申込書類提出までには時間的余裕が有ります。後ほど、正式な申込用紙を作成して、お申し込みいただきます。

なお、参考のために、今年度の開催の詳細と正式な申込用紙が近畿バイオのページにありますので、ご参照ください。

<https://www.kinkibio.com/>

<開催概要>

関西バイオ 2021

HOBIA のホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO 法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北 2 1 条西 1 2 丁目 コラボほっかいどう内